

Title	故阿部教授の河上肇氏譯新史觀序文の一節
Sub Title	
Author	
Publisher	三田史学会
Publication year	1925
Jtitle	史学 Vol.4, No.3 (1925. 8) ,p.70(382)- 70(382)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19250800-0070">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19250800-0070</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

カールランブレヒトは世の稱する如く、獨逸第一流の史家なり。思ふに彼が史風に至りては、今尙褒貶相半すと雖、然かも獨り談理を以て甘んぜずして、同時に創作者の人たるに至りては、かの認識論の迷宮に陥れる小ランケ派の徒の遙かに及ばざる所なり。彼嘗て其著「獨逸史」に於て、自己の研究式を公にして曰く、「自然科學にありては、或る顯著なる標準によりて種々の事象を區別する」「リンネウス氏分類法」の如きものありき。然れども是等の研究や時代の経過と共に層一層進歩して、今や有機物の組織を微細なる細胞の實在的方面より究むるに至れり。即ち解剖學、生理學の如き溯源的科學の發達を促し、是が研究は多々益々精確の境に達せんとす。彼等の問ふ處は「其は如何なる狀態にあるや」「にあらずして、寧ろ其は如何にして生じたりしや」にありとす。思ふに吾史學の如き、固とは是等の科學と同一視すべきに非ずと雖、然れども今の稱して政治史研究式となす者、尙リソネウス氏分類法の如きに非ざるか。彼等は只人類の極盛時代に於ける外面的觀察を以て満足すべきなるものか。吾人は現代史學發達の徑路に於て、其は本來如何なる狀態にありしやの境を轉じて、其は如何にして生じたりしやの研究をなすの必要を見ざるか。私は時代の經過と共に、其の研究方式が多々益々新なる可きを信じて、茲に溯源的立脚地より史的生命を組織する微細なる細胞の發達を研究せんと欲す。

(下略)：(故阿部教授の河上肇氏譯新史觀序文の一節)